

第4節 縄文土器底部の敷物圧痕に見る編組技術の特徴と地域性

本遺跡出土土器には、外底面に製作工程で用いた敷物の圧痕を残すものが多く確認できる。これらは第3節で述べたような土器の製作工程の一端を示すと同時に、明瞭な圧痕から編組製品に用いられた編組法を読み取ることが可能である。ここでは、土器底部の敷物圧痕の概要を明らかにした上で、本遺跡の集落における植物資源利用の一つである編組製品の編組法の分類と組成およびその地域性について検討を加え、考察する。

1. 敷物圧痕の概要

今回報告対象とした縄文土器2,046点のうち底部が残存するものは347点であり、このうち239点(68.9%)の外底面に敷物圧痕が認められた。確認した敷物圧痕のうち、編組製品は網代編み197点(82.4%)、もじり編み18点(7.5%)の計215点(90.0%)、植物の葉は24点(10.0%)で、編組製品の網代編みが多く見られた(第1表)。植物の葉は広葉樹または広葉草本の葉である。編組製品は幅広い底径の土器に用いられているのに対して、植物の葉は概ね底径11cm以下の小型の土器に限られる。得られる葉の大きさや耐久性の点で、底径の大きい土器には編組製品が選択されたと考えられる。

2. 編組製品の分類と組成

(1) 編組製品の分類

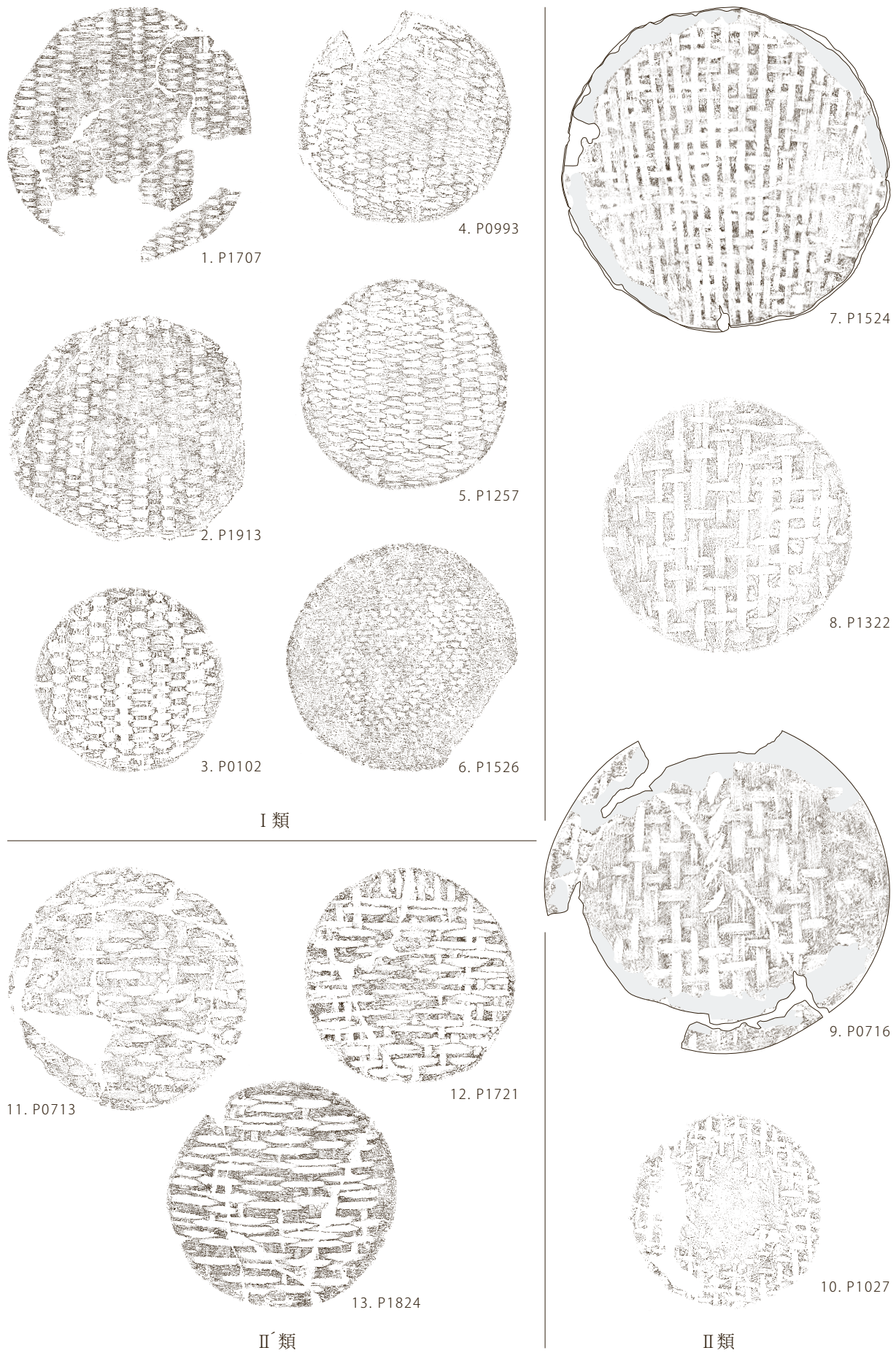
編組製品の圧痕が比較的明瞭なもの76点について編組法を判読し分類したところ、網代編み66点がⅠ～Ⅴ類の5種、もじり編み10点がⅥ～Ⅷ類の3種に分類された(第1・2表)。編組法の判読は拓影図と実物資料の観察に加えて、一部の資料はシリコン樹脂による圧痕レプリカ(写真1・2)を作成して観察した。圧痕レプリカでは、拓影図や実物資料では把握が困難な細部の表面形状が陽像として現れており、個々の素材を識別し編み方を把握する上で極めて有効であった。以下、各分類群の特徴と土器群との関係について述べる。なお、縦材・横材幅は各資料の最大値を集計して平均した値であり、縦材・横材間隔は平行して隣り合う材の芯々を計測した各資料の最大値を集計して平均した値である。

Ⅰ類(第1図1～6) 1本越え1本潜り1本送りで編まれる網代編みである。37点確認した。縦材幅平均3.9mm、横材幅平均3.9mmで、比較的に厚手のものが多い。両側縁に直線的な稜を持つヒゴ状の割り裂き材を素材とし、平らなものと丸みを帯びるものが見られる。編み目はござ目状または市松模様を呈する。直線的な縦材に対して横材は表裏に弯曲しながら潜り越えを繰り返すものが多く、軟質な素材を用いていることを示す。圧痕には縦材が痕跡的で、横材が明瞭な列点状の凹凸となって現れている。大木7a式2点、7b式7点、阿玉台式系統1点、8a式9点がある。

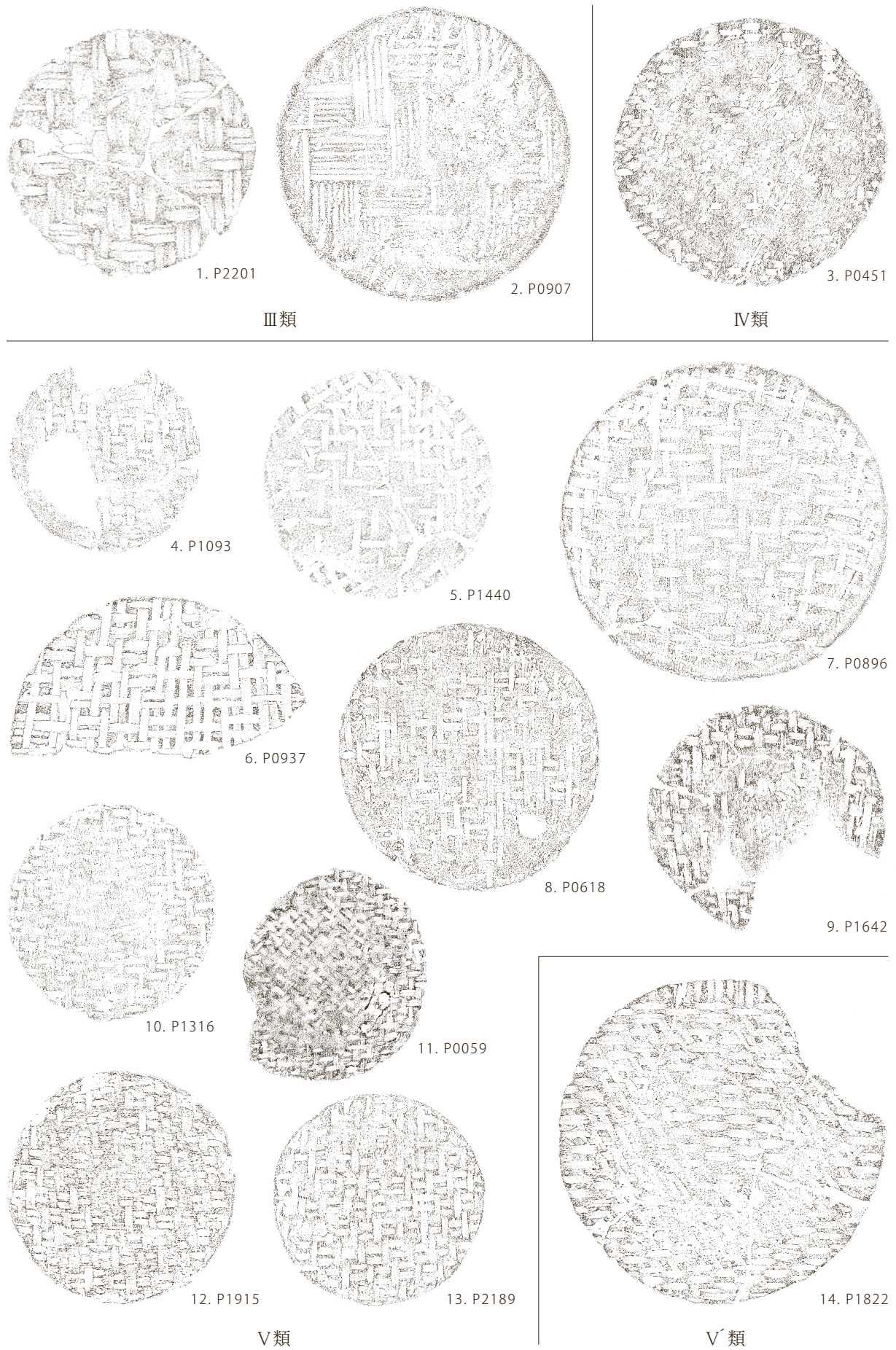
Ⅱ類(第1図7～10) 1本越え3本潜りで編まれる網代編みである。11点確認した。また、これと表裏の関係にある3本越え1本潜りの4点をⅡ'類とした(第1図11～13)。以下、Ⅱ'類を含めてⅡ類と記載する。送りは1本または2本のもの、1本・2本を繰り返すもの、不規則なもの(1本・2本・3本ほか)があり、1本・2本を繰り返すものがやや多い。縦材幅平均5.1mm、横材幅平均4.7mmで、比較的に厚手のものが多い。

第1表 土器底部敷物圧痕の類型別出現頻度

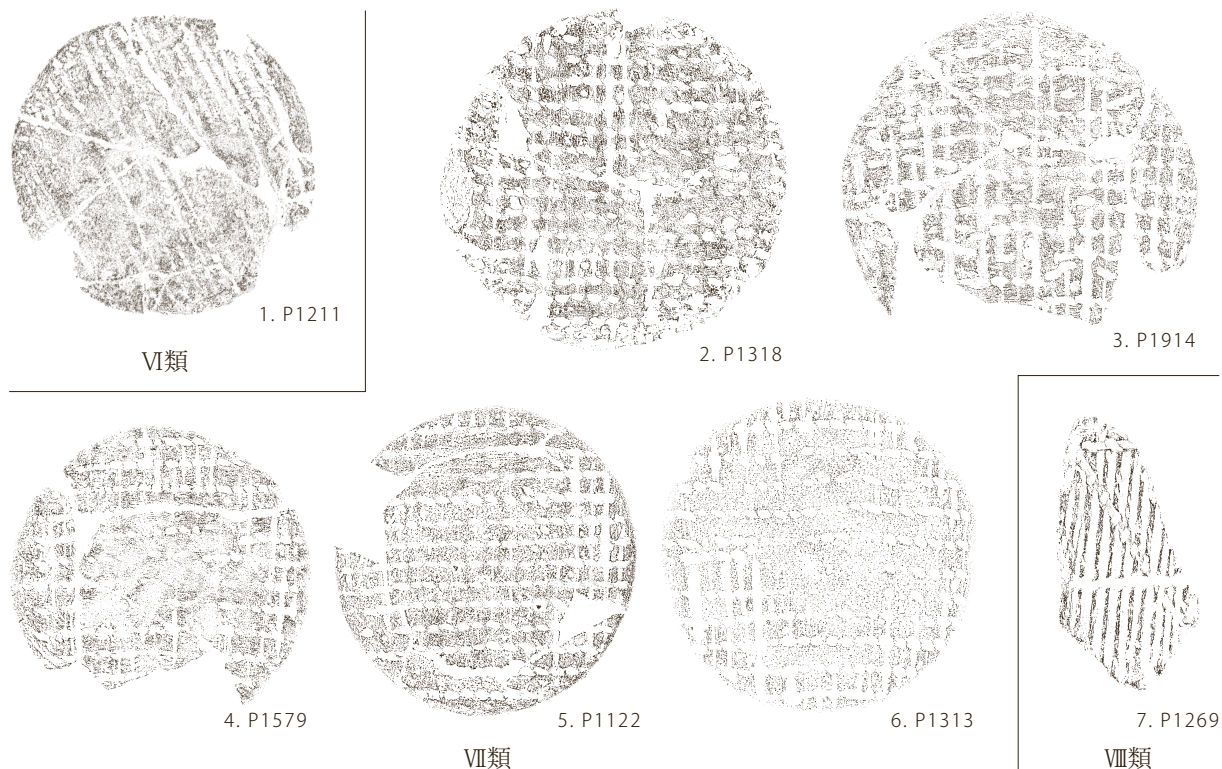
分類	編組製品														葉脈	合計
	網代編み									もじり編み						
	I類	II類	II'類	III類	IV類	V類	V'類	不明	計	VI類	VII類	VIII類	不明	計		
点数	37	11	4	2	1	11	1	130	197	1	8	1	8	18	24	239



第1図 土器底部敷物圧痕の分類 (1)



第2図 土器底部敷物圧痕の分類 (2)



第3図 土器底部敷物圧痕の分類 (3)

割り裂き材を素材とし、平らなものと丸みを帯びるものが見られる。大木 7a・7b・8a 式各 1 点がある。

Ⅲ類 (第2図1・2) 2本越え2本潜り1本送りで編まれる網代編みである。2点確認した。縦材幅平均 19.7mm、横材幅平均 21.8mm で、縦材と横材が密に組み合い交差部の圧痕も明瞭であることから、素材は比較的薄手で軟質であることを示す。一本に複数条の筋が通り、数本の素材を合わせて用いたか、縦に割り開いた素材を用いたと考えられるものがある。大木 7a 式 1 点がある。

Ⅳ類 (第2図3) 2本越え3本潜り1本送りで編まれる網代編みである。1点確認した。縦材幅 3.3mm、横材幅 3.5mm で、やや厚みを持つ。割り裂き材を素材とし、平らなものが見られる。大木 8a 式 1 点がある。

Ⅴ類 (第2図4～13) 2本越え4本潜りで編まれる網代編みである。11点確認した。また、これと表裏の関係にある4本越え2本潜りの1点をⅤ'類とした(第2図14)。以下、Ⅴ'類を含めてⅤ類と記載する。送りは3本、1本・2本を繰り返すもの、2本・3本を繰り返すもの、3本・3本・2本を繰り返すものなどがあり、3本、2本・3本を繰り返すものがやや多い。また、3本送りで規則的な斜交材を伴うものがある。縦材幅平均 4.1mm、横材幅平均 4.0mm で、比較的厚手のものが多い。割り裂き材を素材とするものが主体で、平らなものと丸みを帯びるものが見られる。新保式系統 1 点、大木 8a 式 1 点がある。

Ⅵ類 (第3図1) 左絡みで編まれるもじり編みである。1点確認した。圧痕が不明瞭なため計測が難しいが、横材の間隔は 4.5mm である。大木 8a 式 1 点がある。

Ⅶ類 (第3図2～6) 右絡みで編まれるもじり編みである。8点確認した。縦材幅平均 2.3mm、縦材間隔平均 6.4mm、横材間隔平均 9.1mm である。新保式系統 1 点、大木 7b 式 2 点がある。

Ⅷ類 (第3図7) 右絡みで編まれるもじり編みで、斜交材を添えるもの(ヨコ添えもじり編み)である。1点確認した。縦材幅 3.4mm、縦材間隔 5.8mm、横材間隔 53.2mm である。

(2) 編組製品の組成

上述の分類を土器型式ごとに見ていくと、2期には大木7a式でⅠ・Ⅱ・Ⅲ類、新保式系統でⅦ類が見られる。3期には大木7b式でⅠ類を主体にⅡ・Ⅶ類も見られ、阿玉台式系統でⅠ類、新保式系統でⅤ類が見られる。4期には大木8a式でⅠ類を主体にⅡ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ類も見られた。型式比定できた資料が限られており、時期的な変化はあまり明瞭にできないが、Ⅰ・Ⅱ類が普遍的に認められ、大木7b・8a式でⅠ類が主体を占めること、時期が不明瞭ながら特徴的な分類として8a式などにⅤ類が見られることが指摘できる。

3. 編組技術の地域性

(1) 類例の分布

本遺跡出土土器に見られる敷物圧痕の編組法で主体を占めるⅠ類は、東北地方に広く認められる編組法である(松永 2004)。Ⅰ類には軟質な素材を用いた横材が表裏に弯曲しながら潜り越えを繰り返し、圧痕に特徴的な列点状の凹凸が現れるものが比較的多く見られ、これらは北海道から鳥取県までの日本海側の地域(年最深積雪深 50cm 以上の多雪地帯)に分布するとされる東北型網代圧痕(植松 1981)に類似する。東北型網代圧痕については、民具との比較検討からマタタビの蔓の割り裂き材を素材としたマタタビ製カゴ類との質感・分布の共通性が指摘されている(渡辺 1996)。

Ⅰ類のほかに本遺跡で特徴的に見られるのはⅡ・Ⅴ類である。縄文時代中期前半の遺跡にこれらの類例を求めると、Ⅱ類は七ヶ宿町小梁川遺跡(宮城県教委 1986)、仙台市上野遺跡(仙台市教委 2010)、登米市青島貝塚(登米市教委 2011)、福島県福島市八景腰巻遺跡(福島県教委 1975b,c)、飯館村上ノ台 A 遺跡(福島県教委 1984)、磐梯町・猪苗代町法正尻遺跡(福島県教委 1991)、山形県米沢市台ノ上遺跡(米沢市教委 2006)、尾花沢市原の内 A 遺跡(山形県教委 1988)、茨城県茨城町宮後遺跡(茨城県教育財団 2002)など、Ⅴ類は七ヶ宿町小梁川遺跡(前掲)、川崎町中ノ内 A 遺跡(宮城県教委 1987a)、福島県福島市月崎 A 遺跡(福島市教委 1992・1997)、八景腰巻遺跡(前掲)、大平・後関遺跡(福島市教委 1995・2008)、飯館村上ノ台 A 遺跡(前掲)、石川町七郎内 C 遺跡(福島県教委 1982)、山形県米沢市台ノ上遺跡(前掲)、茨城県日立市諏訪遺跡(日立市教委 1980)、茨城県茨城町宮後遺跡(前掲)など、いずれも東南北部から東関東地方にかけての地域に分布が見られる。このうち、Ⅱ類は宮城県域中・北部から山形県域東部に位置する上野遺跡、青島貝塚、原の内 A 遺跡、Ⅴ類は福島県域の大平・後関遺跡、七郎内 C 遺跡、茨城県域の宮後遺跡で比較的多く見られる。Ⅲ・Ⅳ類およびⅥ～Ⅷ類は、本遺跡では客体的である。類例はⅢ類が台ノ上遺跡、Ⅶ類が中ノ内 A 遺跡、台ノ上遺跡、原の内 A 遺跡で確認できるが本遺跡と同様に低比率であり、山形県鶴岡市西向遺跡(山形県埋文 2004b)、新潟県十日町市笹山遺跡(十日町市教委 1998)、津南町道尻手遺跡(中田 2005)、堂平遺跡(松永 2011)、石川県能登町真脇遺跡(能都町教委 1986)など山形県域西部から北陸地方にかけての日本海側の地域にまとまった分布が見られる。

(2) 編組技術の地域性

本遺跡出土土器に見られる敷物圧痕の編組法は東北地方で一般的なⅠ類を主体とするほかに、Ⅱ・Ⅴ類が特徴的に見られた。これらは管見の限りでは網代編みが卓越する関東地方、もじり編みが卓越する北陸地方のいずれにおいても主体的には認められない編組法であり、類例の検討から東北地方南部を中心に分布するものと考えられる。その中でⅡ類は比較的広範に認められるのに対して、Ⅴ類は南半部(仙台平野以南)に偏在性を持った分布を示すようである。こうした地域性は、土器群の型式学的検討(第1節)から見出される状況と概ね一致し、土器の器形や文様といった外観的特徴の類似性だけでなく、道具の扱いや製作技法といった技術全般が共有されていたことを示すと考えられる。また、Ⅲ・Ⅳ類およびⅥ～Ⅷ類は北陸地方を中心に分布するので、本遺跡でも北陸系土器にⅦ類が見られることから、主にこれらの土器との関連が考えられる。

なお、V類はこれまでに蔵王町二屋敷遺跡（宮城県教委 1984）、仙台市六反田遺跡（松岡 1981）、梨野 A 遺跡（松岡 1983）など縄文時代中期後葉から後期前葉にかけての宮城県域を中心に福島県域北部にかけての地域で卓越することが知られている（松永 2008）。上記の検討から、これを少なくとも中期中葉（大木 8a 式期）まで遡らせることができる。その分布域は大木 8a 式土器の主たる分布域の南半部に相当し、植物資源利用の一側面から抽出された地域性が土器様相の地域性に概ね一致することを示すものと考えられる。

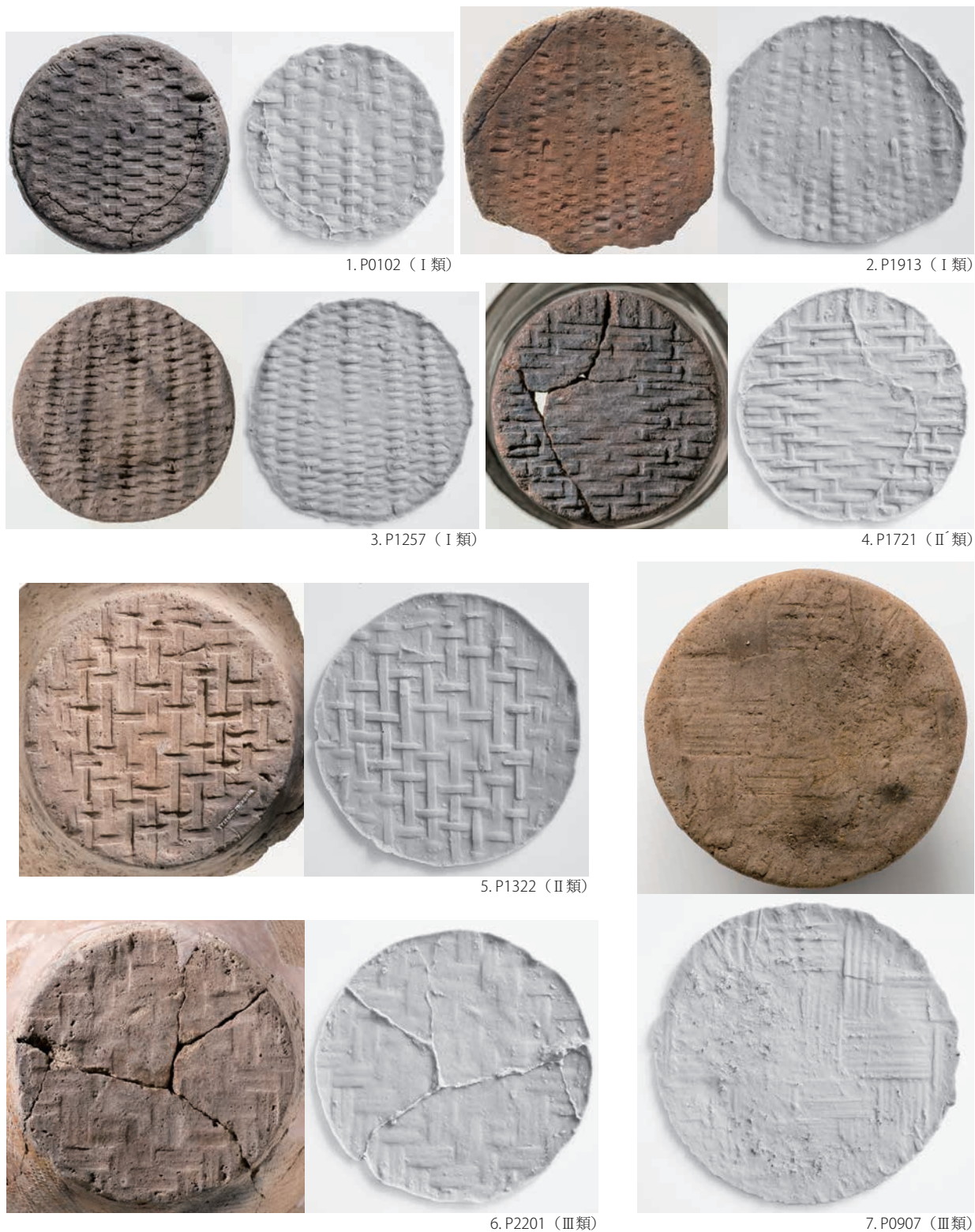


写真1 土器底部敷物圧痕とシリコン樹脂による陽像(1)



1. P0451 (IV類)



3. P0618 (V類)



2. P1440 (V類)



4. P2189 (V類)



5. P0937 (V類)



6. P1211 (VI類)



7. P1122 (VII類)



8. P1269 (VIII類)

写真2 土器底部敷物圧痕とシリコン樹脂による陽像(2)

第2表 土器底部敷物圧痕の観察表

登録番号	土器群分類	器種	底径(mm)	編組法			タテ材幅(mm)	ヨコ材幅(mm)
				分類	種別	編み方		
P0002	III-1(2)	深鉢	12.6	I類	網代編み	1本越え1本潜り、1本送り	厚手硬質素材	3.5
P0004	III-1(2)	深鉢	7.8	I類	網代編み	1本越え1本潜り、1本送り	-	-
P0016	V-2	深鉢	15.2	I類	網代編み	1本越え1本潜り、1本送り	扇型に開く	-
P0059	-	深鉢	11.9	V類	網代編み	2本越え4本潜り、3本送り・1本送り	同種重複	2.6 3.2
P0098	IV-1(2)	深鉢	8.2	I類	網代編み	1本越え1本潜り、1本送り	厚手硬質素材	- 2.6～4.2
P0102	IV-1(2)	深鉢	10.2	I類	網代編み	1本越え1本潜り、1本送り	厚手硬質素材	3.9 3.9
P0210	IV-1	深鉢	14.3	I類	網代編み	1本越え1本潜り、1本送り	厚手硬質素材、重複	- 2.3～3.0
P0235	-	深鉢	(12.0)	I類	網代編み	1本越え1本潜り、1本送り	端部?、厚手硬質素材	- 3.7
P0340	-	深鉢	13.6	I類	網代編み	1本越え1本潜り、1本送り	扇型に開く、厚手硬質素材	- 2.4～4.6
P0341	-	深鉢	(13.6)	I類	網代編み	1本越え1本潜り、1本送り	扇型に開く	- 3.0
P0349	-	深鉢	12.4	II類	網代編み	1本越え3本潜り、送り不規則	扇型に開く	4.4 4.3
P0451	IV-1(3)	深鉢	14.4	IV類	網代編み	2本越え3本潜り、1本送り	厚手硬質素材、重複	3.3 3.5
P0568	IV-1(2)	深鉢	12.1	I類	網代編み	1本越え1本潜り、1本送り	厚手硬質素材	- 3.3
P0618	-	深鉢	14.4	V類	網代編み	2本越え4本潜り、2本送り・3本送りの繰り返し	扇型に開く	3.6 2.7・4.6
P0619	IV-1(2)	深鉢	12.1	I類	網代編み	1本越え1本潜り、1本送り	扇型に開く、編み違い、厚手硬質素材	- 4.3
P0694	III-1(2)	浅鉢	8.1	I類	網代編み	1本越え1本潜り、1本送り	扇型に開く	- 4.3
P0713	III-1(1)	深鉢	12.9	II'類	網代編み	3本越え1本潜り、1本送り	-	5.1 4.2
P0716	-	深鉢	18.5	II類	網代編み	1本越え3本潜り、2本送り・1本送りの繰り返し	扇型に開く、ヨコ添えもじり編み(左絡み)重複	3.7・7.3 4.6
P0896	-	深鉢	17.2	V類	網代編み	2本越え4本潜り、2本送り・3本送りの繰り返し	扇形に開く、同種重複	4.8 4.7
P0907	II-1(2)	深鉢	15.5	III類	網代編み	2本越え2本潜り、1本送り	異種重複	18.7～25.17 18.6～30.4
P0937	-	深鉢	(15.8)	V類	網代編み	2本越え4本潜り、1本送り・2本送りの繰り返し	扇型に開く	3.7・4.5 3.4～4.5
P0993	-	深鉢	11.5	I類	網代編み	1本越え1本潜り、1本送り	扇型に開く	4.6 4.0
P1027	V-2	深鉢	10.6	II類	網代編み	1本越え3本潜り、1本送り	重複	2.7 3.7
P1029	-	深鉢	10.0	I類	網代編み	1本越え1本潜り、1本送り	扇型に開く	- -
P1093	-	深鉢	10.2	V類	網代編み	2本越え4本潜り、3本送り	-	4.6 3.6
P1122	-	深鉢	11.8	VII類	もじり編み	右絡み	縦材間隔 5.5mm、横材間隔 8.3mm	2.3 -
P1158	-	深鉢	(17.0)	I類	網代編み	1本越え1本潜り、1本送り	扇型に開く、厚手硬質素材	- 3.9
P1195	V-2	深鉢	13.4	II類	網代編み	1本越え3本潜り	扇型に開く	3.5・5.9 5.0
P1201	III-1(1)	深鉢	15.1	I類	網代編み	1本越え1本潜り、1本送り	変則的(経条2本→1本に変化)、扇型に開く、厚手硬質素材、重複?	3.3 2.2
P1211	IV-1(2)	深鉢	12.1	VI類	もじり編み	左絡み	横材間隔 4.5mm	- -
P1242	III-1(1)	深鉢	12.1	I類	網代編み	1本越え1本潜り、1本送り	扇型に開く、厚手硬質素材	- 4.1
P1248	-	深鉢	14.1	II類	網代編み	1本越え3本潜り、1本送り・2本送りの繰り返し	扇型に開く	3.6～6.1 4.6
P1255	-	深鉢	11.0	I類	網代編み	1本越え1本潜り、1本送り	-	- 3.7
P1257	-	深鉢	11.4	I類	網代編み	1本越え1本潜り、1本送り	扇型に開く	4.7 3.5
P1259	-	深鉢	13.2	II類	網代編み	1本越え3本潜り、1本送り・2本送りの繰り返し	扇型に開く	3.8～6.2 3.4～6.2
P1269	-	深鉢	-	VII類	もじり編み	右絡み、斜交材(ヨコ添えもじり編み)	縦材間隔 5.8mm、横材間隔 53.2mm	3.4 -
P1279	IV-1	深鉢	10.0	I類	網代編み	1本越え1本潜り、1本送り	-	- 3.6
P1297	-	深鉢	14.2	I類	網代編み	1本越え1本潜り、1本送り	厚手硬質素材	- 4.9
P1313	-	深鉢	12.5	VII類	もじり編み	右絡み	縦材間隔 6.2mm、横材間隔 10.4mm	2.5 -
P1316	-	深鉢	11.1	V類	網代編み	2本越え4本潜り、3本送り2回・2本送り1回の繰り返し	-	3.9 3.4
P1317	-	深鉢	9.2	I類	網代編み	1本越え1本潜り、1本送り	編み違い、厚手硬質素材	3.9 3.8
P1318	III-1(2)	深鉢	13.1	VII類	もじり編み	右絡み	縦材間隔 6.5mm、横材間隔 9.1mm	2.0 -
P1322	-	深鉢	13.8	II類	網代編み	1本越え3本潜り、1本送り・2本送りの繰り返し	扇型に開く	2.4～5.3 3.8～5.4
P1339	III-1(1)	浅鉢	8.4	VII類	もじり編み	右絡み	横材間隔 7.4mm	2.0 -
P1364	-	深鉢	12.3	VII類	もじり編み	右絡み	縦材間隔 8.1mm、横材間隔 9.1mm、扇形に開く	1.9 -
P1373	II-1(2)	深鉢	10.9	II類	網代編み	1本越え3本潜り、送り不規則(1・2・3本ほか)	扇型に開く	4.1 3.3・5.5
P1406	-	深鉢	14.0	II類	網代編み	1本越え3本潜り、2本送り	扇型に開く	2.7・5.1 2.9・4.8
P1407	IV-1	深鉢	16.5	I類	網代編み	1本越え1本潜り、1本送り	厚手硬質素材、同種重複(3回)	- 2.5～5.6
P1440	IV-1(1)	深鉢	12.6	V類	網代編み	2本越え4本潜り、3本送り、規則的な斜交材	-	3.8 3.2
P1480	-	深鉢	13.4	II類	網代編み	1本越え3本潜り、送り不規則(1・2・3本ほか)	扇形に開く	4.9 4.4
P1524	-	深鉢	-	II類	網代編み	1本越え3本潜り、1本送り・2本送りの繰り返し	扇型に開く	4.2 4.1
P1525	-	深鉢	17.0	I類	網代編み	1本越え1本潜り、1本送り	厚手硬質素材	- 3.1～5.0
P1526	-	深鉢	12.6	I類	網代編み	1本越え1本潜り、1本送り	外周部磨減	- 2.8
P1527	-	深鉢	14.3	I類	網代編み	1本越え1本潜り、1本送り	厚手硬質素材、同種重複	4.9 2.2～4.5
P1528	-	深鉢	15.4	II'類	網代編み	3本越え1本潜り	-	3.3・5.5 3.3・5.5
P1579	-	深鉢	12.0	VII類	もじり編み	右絡み	縦材間隔 5.5mm、横材間隔 9.4mm	1.8 -
P1580	-	深鉢	11.7	I類	網代編み	1本越え1本潜り、1本送り	厚手硬質素材、同種重複	3.2 3.7
P1642	III-3	深鉢	12.8	V類	網代編み	2本越え4本潜り、2本送り・3本送りの繰り返し	扇型に開く	3.4・5.1 3.1・5.1
P1687	-	深鉢	13.5	I類	網代編み	1本越え1本潜り、1本送り	扇型に開く、厚手硬質素材	4.2 2.2～3.9
P1707	II-1(2)	深鉢	13.2	I類	網代編み	1本越え1本潜り、1本送り	厚手硬質素材	2.6 4.8
P1710	III-1(2)	浅鉢	(16.1)	I類	網代編み	1本越え1本潜り、1本送り	厚手硬質素材	- 3.1・4.0
P1721	IV-1(1)	深鉢	11.5	II'類	網代編み	3本越え1本潜り	端部	2.9・4.4 3.6
P1822	-	深鉢	17.7	V'類	網代編み	4本越え2本潜り、3本送り	端部、厚手硬質素材、同種重複	4.2 4.2
P1824	-	深鉢	12.3	II'類	網代編み	3本越え1本潜り	端部、厚手硬質素材、同種重複	4.2 4.2
P1826	-	小型深鉢	7.9	V類	網代編み	2本越え4本潜りか?	-	3.6 3.7
P1828	III-1(1)	深鉢	(11.2)	I類	網代編み	1本越え1本潜り、1本送り?	-	- -
P1895	II-3	浅鉢	(10.2)	VII類	もじり編み	右絡み	縦材間隔 5.7mm、横材間隔 9.0mm	3.0 -
P1913	-	深鉢	13.4	I類	網代編み	1本越え1本潜り、1本送り	扇型に開く、厚手硬質素材	3.8 4.3
P1914	-	深鉢	13.6	VII類	もじり編み	右絡み	縦材間隔 6.3mm、横材間隔 8.1mm、扇型に開く、編み違い?	2.7 -
P1915	-	深鉢	12.8	V類	網代編み	2本越え4本潜り、3本送り・4本送り?	-	2.7・4.4 3.5
P2004	III-2	浅鉢	(12.8)	I類	網代編み	1本越え1本潜り、1本送り	編み違い、斜交材(重複?)、厚手硬質素材	- 4.5
P2019	IV-1(3)	深鉢	12.0	I類	網代編み	1本越え1本潜り、1本送り	厚手硬質素材	- 2.5
P2046	IV-1(1)	深鉢	13.8	I類	網代編み	1本越え1本潜り、1本送り	扇型に開く、厚手硬質素材	3.8 3.6
P2160	II-1(2)	浅鉢	8.3	I類	網代編み	1本越え1本潜り、1本送り?	厚手硬質素材	- 3.4
P2188	-	深鉢	5.0	I類	網代編み	1本越え1本潜り、1本送り	厚手硬質素材、重複?	- 4.1
P2189	-	深鉢	11.6	V類	網代編み	2本越え4本潜り、3本送り・4本送り?	-	2.7・3.7 3.7
P2201	V-2	深鉢	13.4	III類	網代編み	2本越え2本潜り、1本送り	-	9.6～14.3 10.6～13.2